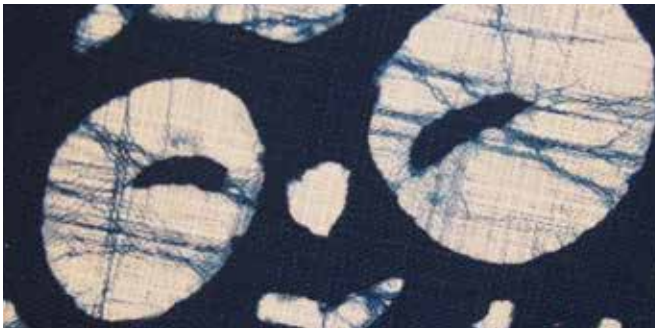
ろうけつ染め

ろうけつ染の技法の歴史は古く、日本では奈良時代から蝋纈と称して行われていました。当時は蜜ろうを使っていたため高価な染色でしたが、明治末期にインドネシアのバティク染めの技法が取り入れることにより、広く普及し、多くの工芸作家によって美術工芸に欠かせない染色技法として利用されるようになり友禅技法と肩を並べるまでに成長をとげました。

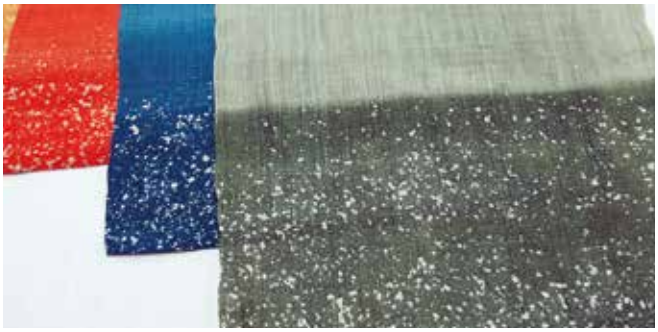
ろうけつ染めは、布にロウをのせ色の混ざりやを防いだり、その部分に染料が入らないようにする“防染方”と呼ばれる染色法です。友禅染めでよく使われる“色糊”の糊の代わりに、ロウを使うことにより、ロウのひび割れが不規則な柄を生み出し、味わい深い模様を作り出します。

ろうけつ染は、技術的に高度な発展を遂げる中で、数多くの技法が生み出され、様々な表現を可能にしています。ろうけつ染の技法として、型ろうけつ・手描きろうけつ・ひび割れ・ふぶき（吹きつけろうけつつ）・チャンチン・だんまる描き・シケ引きなどが有ります

ろうけつ染の代表的な技法



ひび割れ：様々なひび模様を作る技法で、ロウの種類を使い分けておこないますが、亀裂をいれる割り方には、絞って割る・道具を使って割るなど、その方法は無限といえます。



ふぶき：生地にろう液の飛沫をはじきとばして、こまかい斑点の効果をねらって、染め出す技法です。蒔きろう、ろう吹雪、ろうしぶき、ろうしばきなどとも呼ばれます。

ろうけつ染の工程

①
柄の下書き
染色後に消えるインキで、柄の下書きをする。

②
ロウ書き
柄に合わせてロウを使い分ける。

③
色出し・染め
染料の中に布を浸けて布に色を定着させる。この時に、糊部分を適度にも見ながらロウ割れを作り、ろうけつ染特有の不規則な柄やラインが生まれます。

④
ロウ落とし
沸騰させてた熱湯で生地のロウを落とす。

⑤
アイロンかけ＋仕立て
生地をしっかり伸ばして専用アイロンで仕上げる。

www.the.kyoto.jp

一宮株式会社 〒615-8174 京都市西京区桂原中垣外7-1
TEL075-394-7011㈹ FAX075-394-7022